昭和医科大学大学院保健医療学研究科
博士後期課程
令和７年度秋季
入学試験問題
【専門科目】

設問 1

以下の処方箋を読み、1）～2）に答えよ。

患者氏名：昭和 花子 様　　年齢：85 歳　　性別：女性

診断名：右大腿骨頸部内側骨折

現病歴：自宅で転倒し受傷。当日、当院救急外来を受診し、上記診断にて入院となる。
受傷 2 日後に人工骨頭置換術が施行された。

術式：後側方侵入法、bipolar 人工骨頭使用、初期固定良好で術後全荷重許可

障害名：関節機能障害、歩行障害、ADL 障害、認知機能障害

既存疾患：認知症（中等度）

受傷前移動能力：ベッド周囲の歩行自立

1）術後合併症の留意点について述べなさい。

2）退院時には股関節屈曲 90° を獲得し、起き上がりやベッドからの立ち上がりは自立した。歩行は四点杖を使用した 2 点 1 点歩行の前型で、右立脚期に若干のデュシャンヌ型歩行が認められる。

この症例に対するホームエクササイズを立案し、生活指導についても述べなさい。

設問 2

下記に本邦での平均寿命の推移とパーキンソン病推計患者数を示す。図表の内容と現況での患者治療、2025 年 4 月に京都大学で発表された治験内容をふまえ、パーキンソン病に対する医療について今後の展望について自らの考えを述べよ。

治験内容は、健常な方の iPS 細胞からドパミン神経前駆細胞をつくり、パーキンソン病患者の被殻に移植するといったものである。重篤な有害事象は生じず数名には国際パーキンソン病・運動障害学会統一パーキンソン病評価尺度（MDS-UPDRS）パート III の改善、また被殻のドパミン神経の活動増加が認められたと報告されている。治験中は、調整が必要な場合を除き抗パーキンソン病薬の服用はされた。

表 1　平均寿命の年次推移

（単位：年）

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
22	79.55	86.30	6.75
27	80.75	86.99	6.24
令和2	81.56	87.71	6.15
3	81.47	87.57	6.10
4	81.05	87.09	6.03
5	81.09	87.14	6.05

注：1）令和２年以前は完全生命表による。
　　2）昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

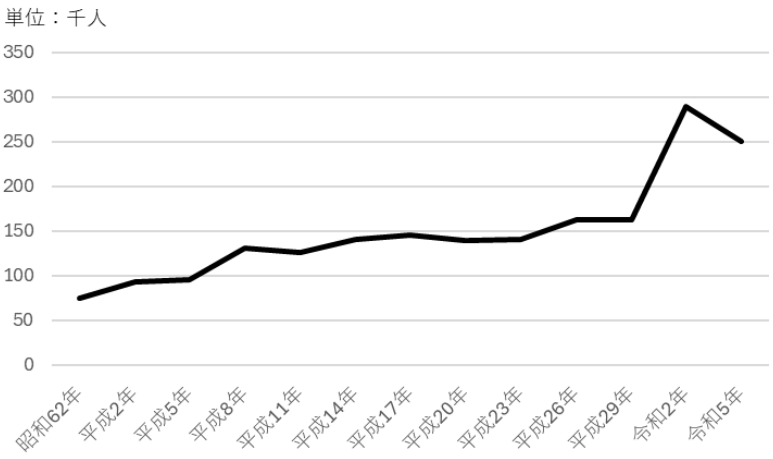

図 1　パーキンソン病総患者数

令和２年から総患者数の推計に用いる平均診療間隔の算出において、前回診療日から調査日までの算定対象の上限を変更。

*表 1 出典：厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life23/dl/life23-02.pdf
*図 1 出典：厚生労働省令和 5 年患者調査傷病分類編（傷病別年次推移表）
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/10syoubyo/